

座談会 新年度の展望



広報特別委員会最後の編集にあたりこの2年間を振り返り、新年度の課題について意見を交換した。(司会は狐崎委員長)



景気低迷が続く中で、昨年の大震災後の情勢はさらに悪化している。

最初に、市の産業振興対策は十分か。

佐藤 直樹 議員

十分とはいえないと思う。農業でも観光産業でも、やる気のある若者をもっと育てるべきである。雇用の場、若者の定着を考えると、起業等応援事業費補助金、総額60万円限度額30万円ではいかにも寂しい。市は本気になってやる気のある若者、起業したい若者を応援すべきだ。



市長が被災地のガレキ受け入れを表明した

社会情勢を勘案して、市民税が5%の減、入湯税は31%の減とした大変厳しい予算編成だ。

安藤 武 議員

政策の基本は、美句を並べるのではなく、予算措置があつて初めて動くもので、その意味からすると期待は出来ない予算だ。

高橋 豪 議員

震災により、相当な経済的ダメージを受けた。本市は、県内一の観光地でもあり、観光客の著しい減少により、観光産業のみならず、第1次、2次産業も含む多くの産業に影響が及び、未だ本来の姿を取り戻せていない。本市は県内どこにも先駆けて立ち直り、他の見本となるべきである。行政はこれまで以上に支援・振興策を積極的に打ち出す必要がある。

が、旧町村単位での温度差を感じるが…。

荒木田 俊一 議員

受け入れ決定から最終処分場の決定に至るまで市民に対する情報の周知や市民の関わり度があるまま温度差となつて現われていると思う。

門脇 民夫 議員

ガレキが処理されなければ、震災復興は進まないで協力しなければならぬことは、皆さん理解していると思うが、受け入れが計画されている処理場周辺や下流の地域では、放射性セシウムに対する不安がある。これを払拭するためにも、定期的な処理場及び周辺の放射線量の測定と結果の公表が大切である。処理前と変わらない結果であれば、不安は払拭されると思う。

小林 幸悦 議員

放射線量が安全基準以下であることが大前提だが、特に、玉川水系を利用している農家から風評被害を心配する声が聞かれる。

また、処分場の処理水についても不安があり、

空間線量及び処理水を測定の際には関係する土地改良区等にも立会いができるような配慮が必要だ。

田口 寿宜 議員

確かに旧町村単位での温度差は感じられるし、放射線量等に対する不安の声も聞かれる。しかし復興に向けて進んでいる現在、そして将来に渡つて復興に携わっていく子ども達の事を思うと、私たち大人がしっかりと環境を整えなければと考える。子を持つ親の立場から、条件付きではあるが、受け入れには賛同した。



市立角館総合病院の建設に向けて動き出すが議論不足との声もある。

田口 寿宜 議員

病院建設については、色々な場面で議論をされてきているが、急ぎすぎている感がある。建物の状況からして必要な事であると考え、組合病院との関係、2つの市立病院の方向性や個人病院との連携等、地域医療の

あり方と方向性を議論する余地はまだあるのではと感ずる。

門脇 民夫 議員

病院の改築に伴う最新の医療機器の設置は、それを活用する医療技術や医師の招聘、そして、看護の心により、市民の命の砦としての医療体制の構築により市立病院の使命を果たしていただきたい。

小林 幸悦 議員

現在の医療体系を存続し、角館病院の老朽化解消に向けた建設と考えている。改築の必要性は、先の、病院等経営に関する特別委員会でもある程度の説明を受け議論してきたものと認識している。

基本構想は示されており、今後の建設に向けて具体的な議論は病院建設特別委員会が中心となつてするものと考えている。

高橋 豪 議員

病院建設特別委員会では病院の建設用地について答申をしているが、これからは、市民のためにどのような病院づくりが必要なのか、将来を見据



えた議論が必要と考えている。また、病院を核にした「まちづくり」の視点も捨ててはいけない。病院に対する人の流れが出来るということは、そこに関わる多くの産業に対して影響を与えることになる。幅広い切り口で議論していきたい。

佐藤 直樹 議員

新病院の第1次までの救急対応、病床数170床という基本的な考え方は理解できる。そして今動かないと医師の確保が大変厳しい状態になり、現状の救急対応もできなくなると思われる。

田口 喜義 議員

観光地であり、山岳エリアに暮らす住民が多い仙北市。農業に限らず高齢化社会が進む現在、病

人を支える家族が住まいから遠い病院に通うことの大切さは誰も思うこと。生活の崩壊を防ぐためにも市民が利用しやすい、患者にも優しいコンパクトな病院づくりを目指すべきである。

問題の多かつた、木質バイオマス発電の今後の見通しはどうか。

佐藤 直樹 議員

大改修後の維持管理費が大変重要な問題になってくると思う。担当委員会でも議論になったと思うが、新しく設備した分に関してはメーカーに負担してもらわなければならない。メーカーとしての信用、責任の問題でもある。

荒木 俊一 議員

今後の見通しと言うより建設計画初の目的にそってどう実行させるかが課題である。

安藤 武 議員

初年度の昨年は大きくつまづいた。自治体で取り組む事業ではないと思うが、議会

はこの事業を認めてきた。今後は売電と言うより電気、熱を利用する方法を考え、国県の支援を望むしかない。

田口 喜義 議員

トラブル続きの木質バイオマス事業（発電）は改良をくり返しているが、事業の目的と、市が事業主体（直営）として経営するのか民間へ移譲するのか早期に示すべきである。

国税局、総務省、県との協議中の過大受給分の見通しはどうか。

が新年度で、もう一度、議会に諮られるが…。

門脇 民夫 議員

市の被った損害を、道義的責任があると思慮される方、OBを含めて関係者全員で返還会を組織し、返還することが市民に対する義務だと思う。

田口 寿宜 議員

大変頭の痛い問題であり正直言って大変腹立たしい問題である。迷惑をかけた所にはその分、しっかりと返さなければならぬが返還会

と仙北市の関係をはっきりさせなければならぬと思う。少しでも責任を感じておられる方々がいらしたならば、是非、返還会に協力頂く事を切に願う。

小林 幸悦 議員

大変残念なことではあるが、各機関で協議され、請求された金額については応じなければならぬと考える。

安藤 武 議員

市長はこの2年間で4年分のエネルギーを使った。県は損害賠償請求するなど強い態度で迫っている。返還会での職員OBの対応と、どのような結果を迎えるか注目したい。

荒木 俊一 議員

市民はもういい加減にしてくれと言う気持ちだと思いが、過去の清算をきっちりつけて次に向かう姿勢を示していきたい。

のように変えるのか。またどう変わってほしいか。

田口 喜義 議員

議会が変われば自治体が変わるとの思いから、現在2つの代表機関（議会と市長）は、市民の信任を受けて議会は多人数

高橋 豪 議員

開かれた議会を目指す。

（22名）による合議制の機関として、市長は独任制の機関としてそれぞれ異なる特性を活かして、市民の意思を市政に反映させるため競い合い、協力しながら最良の方向に進むべきだと考える。今議会では、財政状況、住民サービス状況を市民へ情報を公開し、議会への市民参加を目指すべきではと思う。

佐藤 直樹 議員

2年前に議会基本条例を作成し、昨年はそれを検証し議長に答申した。その中で議会費として定数、報酬の問題は議論が平行線のまま結論がなかった。その後の代表者会議、議運でも決まら

門脇 民夫 議員

ない中で12月議会最終日の昼休み30分で決定し、検証委員会では一歩で

との議会報告会、多くの市民の方々に傍聴していただくよう夜間、日曜議会や本会議中継、市長の先決処分に対する通年議会、議会に対する提言を制度化等をして開かれた議会にしていく必要がある。

田口 寿宜 議員

議会改革を進めてきて大形の形は整ったと感じている。この形を生かし市民の皆様が住んで幸せだと実感できるようにするために、市民の皆様との対話から生まれた政策を提案し、形にして行く事が今まで以上に求められている。改めて、議会の皆様と使命感を共有したいと感じている。

（記録）安藤 武



最後に議会改革について伺います。報酬の決定は見えたが今後どう

ますか。